

# 大城の住民と共に創る 「スージグワー (※1) 週末美術館」 ～大城まちかどギャラリー～

大城集落をまるごと使って行われる「スージグワー週末美術館」では、「大城まちかどギャラリー」と称し、学生と地域住民が一緒になって企画展示を行います。



軒先に色水入りの一輪挿しを飾っている様子

※1 スージグワー…沖縄のことばで「路地」を意味する。

## 活動の概要

目的	沖縄の伝統的技術によって建てられた国指定重要文化財である「中村家住宅」や集落に点在する空き家を利用した、地域住民の世代間交流と歴史的建造物の保存と活用
連携メンバーおよび役割	大城青年会…庭の企画、空き家の清掃 / 大城花咲館会…草花の提供 大城こども育成会…庭の企画、一輪挿し用の草花収集 沖縄県立芸術大学…彫刻作品に関するアンケート回答および作品提供 関西大学環境都市工学部 都市設計研究室 (木下光研究室) …イベント全体の企画および実施運営
活動地域	なかがみくん きたなかぐすくそん あざ おおくすく 沖縄県中頭郡北中城村宇大城
活動期間	2012年9月～(継続中)

## 連携の経緯

都市設計研究室では、2010年から継続している「中村家住宅」の実測調査、2012年のムーンライトコンサート(※2)への参加など、さまざまな角度から大城と関わっている。これらの現地での活動が実を結び、また、学生が現地でインターンシップを経験したこともきっかけとなり、地元で年に1回開催されている「スージグワー週末美術館」に協力することとなった。

※2 ムーンライトコンサート…2001年より毎年、梅雨があけた満月の頃に「大城の地域づくり構想」に基づく「花と緑に囲まれた芸術の里」づくりの一環として開催しているイベント

## 解決すべき課題

- (1) スージグワー (路地) を活用したイベントの開催
- (2) 国指定重要文化財である「中村家住宅」の活用
- (3) 地域住民の世代間交流



QRコードを携帯電話で読み取る様子

大城フォトギャラリー

## 大学の役割

「スージグワー週末美術館」への参加を通じ、地域住民がさまざまな世代と交流できる環境の創造、空き家の活用および地域活性化を目指している。

以下は、「スージグワー週末美術館」での取り組みの紹介 (一部)

- (1) 「みんなでガーデン 大城「色」の庭」：2013年実施  
… (目的) 地域全体に広がる植栽植樹運動の情報発信による新たな空き家の活用手法の提示  
集落内の空き家を有効活用し、軒先と庭の木々に色水の入った小さな一輪挿しを飾ったイベント。  
学生たちが選んだ一輪挿しは、化粧品ケースを利用し、色水は地元で伝わる遊びにヒントを得て、花から抽出した。また、それらは地元の青年会および子ども育成会と協働で製作した。
- (2) 「北中城村彫刻カジマヤー計画QRコード」：2012、2013年実施  
… (目的) アーティストを目指す芸大生の作品情報発信  
沖縄県立芸術大学の学生が作成したテラコッタ彫刻の作品情報を発信するイベント。QRコードには、学生たちが芸大生より収集した作品情報を取り込んだ。そして、沖縄の粘土を使用した素焼きのキューブにQRコードを貼付し、スマートフォン等で読み取れるようにした。
- (3) 「大城フォトギャラリー」：2012、2013年実施… (目的) 生活空間を利用した古写真の活用  
活動の中で収集した地域住民の思い出の古写真やイベントの写真、普段見慣れたスージグワー (路地) で展示するイベント。写真は、学生が作製したカラフルに縁取ったフォトフレームや説明文を付属したスライド式のフォトボックスを使用して展示した。配置は、大人と子どもが見やすい高さを計測するなど、バランスと彩りを重視した。
- (4) 「大城QRコードギャラリー」：2012、2013年実施… (目的) 集落と古写真を利用した屋外美術館の制作  
学生たちが地域住民から収集した写真に解説を加え、QRコードに取り込んだ。QRコードは素焼きキューブや定型に印刷したシートの2種類をデザインし、設置した。大城の失ったかつての風景と今の風景の比較や植栽植樹運動による景観再生の取り組みを次世代に伝える試みである。
- (5) 「中村家住宅QRコードミュージアム」：2012年以降、継続中… (目的) 伝統技術の継承  
快適な住環境をつくる中村家住宅の伝統的技術をQRコードを用いて、一般の見学者にわかりやすく多言語化 (日本語、英語、中国語) し解説した。住宅内外に配置した10箇所QRコードは、住宅を構成する伝統素材である琉球石灰岩、琉球赤瓦、漆喰を用いて製作した。

## 成果

- (1) スージグワー (路地) を活用したイベントの開催
- (2) 活動の成果をまとめた冊子の作成
- (3) 空き家および古写真の有効利用

## 今後の展望

- (1) 「スージグワー週末美術館」へ継続的に企画参加する
- (2) 地域の世代間交流を促すコンテンツの企画

## 研究者の紹介



環境都市工学部 教授  
木下 光  
(きのした ひかる)

専門は都市デザイン (公共空間、都市再生)  
都市計画・建築計画 (都市居住、公設市場、酒蔵)・都市論。